

第 81 回日本歯科理工学会学術講演会報告

令和 5 年 4 月 15 日（土）、4 月 16 日（日）に東京都江戸川区のタワーホール船堀にて第 81 回日本歯科理工学会学術講演会が明海大学歯学部機能保存回復学講座歯科生体材料学分野 日比野 靖教授を大会長として開催されました。第 81 回学術講演会は年 1 回の開催となる学術講演会の最初の講演会となりました。一般演題では口頭発表 18 題（うち研究奨励賞応募口頭発表 3 題）、ポスター発表 66 題の合計 84 題の発表が行われました。

初日の午前中は研究奨励賞応募口頭発表 3 演題の後に、ポスター発表が行われました。本学術講演会ではポスター発表の会場を 1 階の展示ホールとし、広いスペースを有効活用し、2 日間にわたりすべてのポスターを掲示する形式としました。討論は奇数番号、偶数番号により日にちを分けることで密集を避けながら、活発な議論が行われました。初日午後の特別講演では、国立研究開発法人産業技術総合研究所ナノ材料研究部門ナノバイオ材料応用グループ研究グループ長 大矢根綾子先生に「生体に倣ったモノづくりとバイオメディカル応用」と題してご講演を頂きました。過飽和溶液法を応用し生体材料や生体組織の標的面にリン酸カルシウムを迅速に成

膜できる技術の歯科医療現場への応用に関して大変有意義なご講演をいただきました。

夕方からはタワーホール船堀 2 階イベントホール瑞雲・平安にて着席形式の定員制として懇親会が開催されました。懇親会では研究奨励賞ならびに企業賞の授与式が行われました。学術講演会の醍醐味ともいえる懇親会では多くの先生方にご参加をいただき、日中の学術講演会に続き、とても有意義なディスカッションの機会であったと存じます。

また、2 日目午前の口頭発表、ポスター討論に続き、4 階研修室ではランチョンセミナーおよび Dental Materials Adviser/ Senior Adviser 特別セミナーが行われました。特別セミナーは『CAD/CAM 加工用グラスファイバー強化型レジン「トリニア」について』と題し、株式会社松風、寺前充司氏にご講演をいただき、事前申し込みをいただきました先生方により会場は超満員となりました。学会主導型シンポジウムでは、「歯科理工学教育の現状と課題、未来に向けた提言」と題し、松本卓也先生（岡山大学学術研究院）をモデレーターとして宇尾基弘先生（東京医科歯科大学大学院）、玉置幸道先生（朝日大学歯学部）、服部雅之先生（東京歯科大学）ならびに谷本安浩先生（日本大学松戸歯学部）にご講演をいただきました。

末筆ながら、新年度のお忙しい中、400 名を超える先生方に学術講演会にご参加いただきましたことに、第 81 回学術講演会準備委員会を代表し、心から感謝を申し上げます。また会場内にて感染症対策にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げますとともに、会員の先生方の今後ますますのご活躍とご健勝を祈念して、本学術講演会の報告とさせていただきます。

長沢悠子

（明海大学歯学部機能保存回復学講座歯科生体材料学分野）



学会主導型シンポジウム



ポスター発表会場



口頭発表会場



懇親会会場